

# こうち志議会



(こうちこころざしぎかい)

## 会議録

頼 美樹 議長：

これより高知市立中学校、義務教育学校、高等学校の生徒による令和4年度こうち志議会を開会いたします。本日、議長を務めさせていただきます、高知商業高等学校、頼美樹です。よろしくお願いいたします。

まず、こうち志議会の開催に当たり、岡崎市長からご挨拶があります。岡崎市長。

岡崎 市長：

令和4年度「こうち志議会」の開会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日開催をされます、この「こうち志議会」は、高知市が定めております高知市教育大綱の基本目標の一つであります「夢・希望・志をもって社会を生き抜く人づくり」この実現に向けまして、「土佐の先人のように志をもって、自ら未来を切り拓いていくことのできる人になってほしい」との思いを込めまして、開催するものでございます。

今回で5回目の開催となります「こうち志議会」ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度は残念ながら開催を見送りまして、また昨年度はオンラインでの開催ということになりました。今回が実際に各学校の議員の皆様がこの新庁舎の議場にお越しいただいて開催するのは初めてということになりますので、ようこそ、この新庁舎にいらっしやいました。心から歓迎を申し上げます。

さて、高知市のまちづくりの指針ですけれども「高知市総合計画」というのが全体のマスタープランでして総合計画につきましては、今、次期の2021（令和3年度）年度から2030（令和12年度）年度までのいわゆる後期の計画に入っております、これまでも「こうち志議会」で多くの議員さんからいただきましたご提言も参考にしながら、明るさとにぎわいに満ちた元気あふれる高知市を目指しているところでございます。

これまで、ご参加いただきました中学生、義務教育学校、そして高校生の皆さま方からは、大変参考となりますご提言を中心として、多くの提言をいただきましたので、できるだけ我々も高知市の市政にその政策を活かすように努めてまいりました。

また、先月の7月に参議院選挙がありました。本日の「こうち志議会」におきまして、生徒の皆様方が議員となりまして夢や希望を実現できる社会や未来について語り合うことを通しまして、市政の

しくみを可能な限り学んでいただき、そして、将来の有権者として政治に関心をもっていただける場となれば幸いです。

そして、この「こうち志議会」を通して得られた学びや気づきが、これからの学校生活の充実につながっていき、さらには、皆さま方の未来にもつながる有意義な一日となることを期待しております。本日様々な提言をいただけることを楽しみにしております。

最後になりますが、この「こうち志議会」の開催にあたりまして、長期にわたり熱心にご指導をたまわりました、各学校の先生方に心から御礼を申し上げまして、開会にあたりましてのあいさつとさせていただきます。今日はよろしくお願いたします。

頼 美樹 議長：

それでは一般質問を始めます。1番。行川学園，長野哲己議員。

行川学園 長野哲己 議員：

行川学園の長野哲己です。皆さんは高知県の企業を何社知っていますか。地元企業の優れている技術、強みを何社説明できますか。高知県の企業が取り組んでいるSDGsの取組を何社説明できますか。以前、私たちは授業の中で、SDGsに関連して、LGBTQ+について話を聞く機会がありました。そこで、考えさせられたことがありました。私はSDGsの取組について知らないことがたくさんあり、高知の企業でもSDGsの活動に取り組まれている企業もあるのに、高知にいながら身近なところの活動も詳しく知らないということに気づきました。そこで、まずは自分たちの学校でアンケートを採ることにしました。アンケートは後期課程と教職員の方に協力してもらいました。これがその結果です。書画カメラをお願いします。(資料提示)

このままであれば人生の重要な岐路に立つ進学や就職の時に優れた高知県内の企業が行っていることを知らずに将来を選択することになるのではないのでしょうか。書画カメラ終わります。今高知市の多くの中学校でも制服の見直し等も進められており、私たちと同じようにSDGsについて関心を持っている人も多いと思います。そこで、高知市や他地域の企業さんに学校の学習の中で今、取組まれているSDGsの取組を知る機会をつくっていただく事はできないでしょうか。

県内、市内の企業が行っているSDGsの取組を知ることで高知の企業についても知ることができる機会を持つことで、私たちの夢や目標につながります。ぜひ、ご検討をよろしくお願いいたします。

また、高知市の今後のSDGsの活動や展望も教えてください。

頼 美樹 議長：

岡崎市長。

岡崎 市長：

SDGsのアンケートもとっていただきまして、高知の企業の紹介もしていただきまして、ありがとうございます。丁度、私が今付けているのがSDGsのマークでして、世界中でこのSDGsのマークを付けている方も非常に増えてきました。生徒の皆さんが自分の住んでいる地域に目を向けまして、高知県内の企業様が行っておりますSDGsの取組を知ることは、それぞれの活動の視野を広め、将来の選択肢の幅を広げることにつながる有意義なことであるというふうに考えております。

SDGs は期限があり、2030年までの目標ということになっておりまして、今のところまた次の新しいものがでるまでは2030年が一つの目標年次ということになっております。高知県内の企業の取組につきましては高知県の方で、「こうち SDGs 推進企業登録制度」が高知県の方で行われておりまして、現時点で登録されている会社の数ですけれども231社、このうち約7割弱が高知市の企業でして、高知市内の企業様は155社もありますのでかなりの数の企業様が SDGs に取り組んでいただいているところをごさいます、具体的には高知県のホームページでも紹介されております。それぞれのこの制度に登録されました企業様の中には、高知県内、高知市内等の小学校で出前授業を行っているところもありまして、こうした SDGs に関する有益な情報をそれぞれの学校や教育委員会と共有をすることで、学校での学習につなげていただければ大変、我々も参考になるというふうに思っております。

高知市におきましても、地元企業様、先ほども言いましたように、今、県の登録が155社ありますので、地元の一定の取組につきましては高知市のホームページなどを活用して広く周知をしていくことによりまして、企業の応援につなげていきたいと考えております。

SDGs に関しましては、テレビなどで見たり聞いたりする機会が増え、市民の皆さま方の中でも一定の関心が増えてきております。

また、最近では我々の方でも子どもファンドというファンドを小学生の方、中学生の方、高校生の方に使っていただいておりますが、例えば、小学生のプレゼンテーションの中でも SDGs がかなり取り上げられるようになりました。

高知市では、SDGs が国連のサミットで採択されましたのが、9月25日でしたので、この9月25日を含むいわゆる「SDGs 週間」というものを設定いたしまして、イオンモールショッピングセンターにおきまして SDGs イベントを開催することとしておりまして、こうした取組を通じて広く SDGs の普及を進めてまいりたいと考えております。今後も、市民の皆さんや学校、地域の企業の皆さんと一体となりまして SDGs につながる地域の課題解決に取り組みながら、皆様と共に SDGs の目指しております「誰一人取り残さない」社会の実現に共に邁進してまいりたいと考えておりますので、また構わない範囲でご協力いただければ幸いです。

頼 美樹 議長：

2番。潮江中学校、和田莉奈議員。

潮江中学校 和田莉奈 議員：

潮江中学校の和田莉奈です。子ども食堂についてお伺いします。現在、日本では7人に1人の子どもが貧困状態にあるといわれていて、全国的に子ども食堂の必要性が叫ばれています。

高知市でも普及がどんどん進んでいるようですが、子ども食堂が私たちが住んでいる潮江にもあるとは、つい先日まで知りませんでした。TVの報道を見て子ども食堂の存在は知っていたけれど、県外のこと、身近なことだという実感がありませんでした。

調べていくと、潮江地区には3か所活動をしているところがあるようです。地域に住んでいてもその存在すら知らないのは、きっと、「やっていますよ」と大々的に広報できないわけがあるのではないかと考えました。ボランティアで活動するスタッフの不足や資金面、場所の確保などの課題があるということも、調べていくうちにわかりました。

こちらの資料をごらんください。書画カメラお願いします。(資料提示) 潮江地区のこども食堂はどうなっているのかを実際に取材してきました。インタビューの中で、どの子ども食堂も、支援して下さっている方の熱い思いと、相手を包み込むような優しさを感じることができました。私たちが住んでいる潮江には、たくさんの素敵な方がいることを知り、誇らしくなりました。書画カメラ終わります。

この素晴らしい取組を、多くの人知って、活動に協力する人が増えれば、もっと多くの場所で、貧困に苦しむ子どもが救われるのではないかと思います。また、地域のコミュニティとして人と人をつなぐという意味でも今後ますます必要性が増すことと思います。

個人で活動するには負担が大きく、課題も多いので、ぜひ市役所のそれぞれの部署で連携を取っていただき、支援をしてもらいたいと思います。高知市としては各地区の子ども食堂に対してどのような支援をされているのでしょうか。

頼 美樹 議長：

山崎こども未来部長。

山崎 こども未来部長：

子ども食堂につきまして、運営面での課題や、それから質問議員さんの地域での活動状況、実際に足を運ばれまして、しっかりと調査されたうえでご質問をいただきましたことに、まずは感謝を申し上げます。

NPO 法人「全国子ども食堂支援センター むすびえ」の調査では、全国の子ども食堂は令和3年調査で6,007か所となりまして、コロナ禍の会食や飲食の制限にかかわらず、前年調査から約1.2倍、5年前の約18倍に増加をしております。

県内では、県の登録制度により「高知家子ども食堂」として市内36か所が登録されておりまして、県が開設それから運営経費の補助を行っております。

高知市としましては、社会福祉協議会と連携いたしまして、子ども食堂として市の施設を利用する場合に「高知家子ども食堂登録制度実施要綱」にある目的等に沿って活動されているかを確認のうえ、各施設所管課の規定に基づき、利用料減免などの支援をしています。

本年7月5日にNPO法人むすびえが公表しました調査報告によりますと、子ども食堂の困りごとのトップは「必要な人に支援を届けること」届けられているか分からないとなっております。一方で、子ども食堂の約8割は参加条件を設けておりませんので、運営される方は子どもの貧困問題に関心が高いが、運営自体は貧困対策に限ったものではないと推測されます。

近年の子ども食堂の全国的な増加は、食事の提供をきっかけに運営スタッフや参加者が集う多世代交流の機能や、それから、子どもや大人の居場所としての機能など、地域の交流拠点としての機能に社会のニーズが高まってきているものと考えられるところです。

今後につきましても、こうした子ども食堂の機能やニーズを踏まえ、ご質問にございました周知の課題なども含めまして、県市の関係部署と連携し、継続的にサポートしてまいりたいと考えております。

頼 美樹 議長：

3番。城東中学校，中島和香議員。

城東中学校 中島和香 議員：

城東中学校の中島和香です。城東中学校近辺の交通安全の確保について質問させていただきます。高知市立城東中学校は高知市中心に位置しています。大きな県道にも囲まれており，朝や夕方は多くの人が学校周辺を行きかっています。

学校東側の交差点は，登下校の時間は小学生や中学生の通行量が多く，車やバイクとの接触事故が起こりそうな場面をよく見かけます。ドライバーのみなさんのマナーのおかげで，横断歩道を安全に渡っている様子も見かけますが，横断歩道の前で待っている歩行者がいても停止することなく通過していく様子が見られます。

学校の先生方も朝や夕方に交通指導をしてくれていますが，何か歩行者の安全に配慮していただくことはできないでしょうか。城東中学校の前の道路だけでなく，学校周辺の通学路の安全について一考していただけたらと思います。ご回答よろしく申し上げます。

頼美樹 議長：

松下 教育長。

松下 教育長：

学校周辺の通学路の交通安全は，地域の皆様にとって最も願いの強い要望の一つであり，当事者である城東中学校の皆様が，問題意識を持ってくださっていること，とてもうれしく感じております。

通学路の安全対策につきましては，平成27年7月に策定いたしました「高知市通学路交通安全プログラム」に基づき，学校，道路管理者，警察，教育委員会の4者が協力して，必要な対策に取り組んでおります。本プログラムでは，「通学路の安全性の向上を図ること」を目的とし，「学校等から通学路に対する要望を受け，危険箇所の合同点検を実施すること」としております。

城東中学校周辺の点検につきましては，隣接する江陽小学校から要請を受け，令和3年度に4箇所，令和4年度に1箇所の合同点検を実施し，令和3年度実施の4箇所につきましては，交差点をカラー舗装するなどの対策を講じてまいりました。

その他の場所におきましても，合同点検を実施した後，対策が必要な箇所につきましては，路面ステッカーの設置等の対策を実施しておりますが，城東中学校南側の道路のように道路幅が狭く，ハード面での対策が困難な箇所につきましては，交通安全指導等のソフト面での対応となっております。

ご意見いただきましたとおり，危険な状況が解消されていない箇所もありますので，今後におきましても，継続的に合同点検を実施し，危険箇所の改善を行っていくとともに，学校，道路管理者，警察の協力をいただきながら，交通安全指導を実施することにより，全ての学校周辺の安全確保に努めてまいります。

頼 美樹 議長：

4 番。城北中学校，山本苺花議員。

城北中学校 山本苺花 議員：

城北中学校の山本苺花です。高知市内の商店街の復興について提案させていただきます。高知市で生活を送る中，最近，近くの商店街の様子が少し寂しく感じます。これは，全国的に見ても課題としてあがっています。このような声に対して，群馬県では，地域で制作をしたアートベンチを設置し，商店街の活性化へ繋げたという事例があることを知りました。

そこで，高知市でも中学生と地域の商店街が手を取り合い，復興・活性化のきっかけとなれば，にぎやかな街並みを少しずつ取りもどすことができるのではないかと考えてみました。

私たちが考えた案は，商店街のオンラインショップを設立することと，商店街や店舗の様子を中学生がPR動画として作成し，全国に発信することです。

オンラインショップでは，遠方の方でも購入が可能になります。また，利用者のライフスタイルに合った時間帯で商品の閲覧ができるという利点があります。そして，オンラインショップで販売する商品の紹介や店舗の紹介などを中学生がPR動画として作成することで，地域一体となって取り組むことが出来ると考えました。動画撮影には，現在学校で使わせていただいているタブレットを使用することで，費用的な大きな負担もなく作成できると思います。

コロナ禍の現在だからこそ，オンラインという手段を有効活用することで，幅広い年齢層に興味をもってもらい，近い将来の商店街利用客や訪問客のアップ，そして，高知市全体の観光客増加が期待できると思います。ぜひ，オンラインショップの設立とPR動画の掲載をご検討いただきたいです。よろしく申し上げます。

頼 美樹 議長：

岡崎 市長。

岡崎 市長：

高知市内の商店街の実情や，また，群馬県の活性化事例を調べ，商店街の復興についてご意見をいただき，このようなご提案をいただきまして，ありがとうございます。特に群馬県の事例もご紹介いただきましたが，私の方はこの商店街のことは知らなかったのですが，改めて拝見いたしますと，遠いから見にくいと思いますけれども，商店街にこういうアートのいわゆる絵を描いたベンチをもって商店街をやっている，最初はアーティストがそれぞれ描いていたみたいなのですが，やっぱり地元でやろうという話もあって，小学生などがデザインを決めて，小学生が描くというのをやっているようでして，非常にいい取組で，非常に興味深く拝見いたしました。こういう取組も非常に参考になるなというふうに改めて思ったところです。

ご紹介いただきましたこの群馬県の事例ですけれども，場所は高崎ですけれども，高崎市駅の西口エリアに位置する3つの商店街が連携をしまして，ストリートベンチプロジェクトという名称で始めたということで，最初はアーティストの方々に参加をいただきましたけれども，それぞれ現在では小学校，中学校，または保育園の園児なども関わっているという風に聞いておりまして，このプロジェクト自体，非常に楽しくていいプロジェクトだなというふうに改めて思ったところです。

高知市におきましては，令和に入りまして，令和元年度に高知国際中学校の生徒の方々が，愛宕商

店街の活性化を目指しまして愛宕の商店街を紹介する店舗の紹介も含めてですが、いわゆるフリーペーパー「ATAGOBITO（あたごびと）」というフリーペーパーの名称なのですが、「ATAGOBITO（あたごびと）」を作成し、配布をいたしまして、この国際中学校の方々の手書きのイラストやマップで構成されたものでして、非常に出来栄も素晴らしく良くて、商店街の方々にも非常に喜ばれて、大変好評をいただいた事例もあります。

また、帯屋町一丁目商店街青年部では、自宅にいながら帯屋町が体感できるようにということで、商店街の紹介やイベント情報などの発信にそれぞれ青年部として取り組んでいるというようにも聞いております。

ご提案をいただきましたいわゆるオンラインショップの設立やまた、PR動画の作成につきましても、それぞれの商店街と一緒に葛藤しながら取り組んでいただくことによりまして、非常に商店街の活性化につながる効果が期待できるというふうに考えております。

1つの事例として、土佐山に土佐山学舎という小中一貫校がありますが、あそこの高学年の方、8年生、9年生あたりだったと思いますが、作りました観光ビデオですけれども、いわゆる彼岸花ですけれども、ああいうものを美しく撮った土佐山限定の観光のプロモーションビデオも土佐山学舎でも作っておりまして、それを拝見しましたけれどもすごく美しい出来栄となっております非常に感心いたしました。色々なことを取り組んでいくことができるのだなと改めて思いました。

実現に向けましては、運営・管理の手法、また、商店街との協議によって、その仕組み作りなどの検討も必要となりますので、いわゆるターゲットとなります、その地元商店街の振興組合のご意見もお聞きしながら、皆さんと共に検討していけるようになればいいと思いますので、我々も一緒にはいりながら検討したいと思っておりますので、また、ご協力やご支援をお願いしたいと考えております。

頼 美樹 議長：

5番。一宮中学校、金子弥生議員。

一宮中学校 金子弥生 議員：

一宮中学校の金子弥生です。私は、学校のWi-Fi環境の改善について質問させていただきます。私たちの学校では、授業中にタブレット端末を使った学習をすることがあります。そのような学習をしているときに、何度かタブレット端末がスムーズに動かないなど、授業が止まってしまう場面がありました。

例えば、私自身が経験したことでいうと、英語科の授業でタブレット端末を使って英文を打つときに画面が固まってしまい動かなくなったり、社会科の授業ではインターネットで検索しようとしたときには、次の画面が開かなくなったり、インターネットに接続することすらできない人が複数出ました。これは、私のクラスだけが使用したときの話で、人数は30人程度ですが、全校で使用するとすると一宮中学校では500台のタブレット端末を一斉に使用することになります。

1クラスが使用しただけで画面が固まったり、インターネットに接続できなかつたりなどの問題が発生してしまうのであれば、複数のクラスや学年で一斉に使用すると、もっと授業に支障が出て、私たちの学習に大きな影響が出るのではないかと考えました。せっかく一人一台タブレット端末が使える環境にあるので、それがスムーズに動かなかつたり、使えない状態になったりするのはもったいな

いですし、しっかり活用して自分たちの力を伸ばしていきたいと思っています。

そのような理由から。学校の Wi-Fi 環境を今よりも良い状態へと改善していただくことが可能かどうか、質問させていただきます。

ご回答どうぞよろしく申し上げます。

頼 美樹 議長：

松下 教育長。

松下 教育長：

本市においては、国の補助金をいただいて整備した一人一台のタブレット端末を用いた授業のあり方について研究を進めており、一宮中学校では、生徒の皆様がそれぞれタブレット端末を活用して大いに学習に役立っているという様子を伺い、大変頼もしく思うとともに今後の発展にも期待をしているところであります。

さて、学校の Wi-Fi 環境の不安定な状況についてですが、これまで、教育委員会では、ネットワーク保守業者の方々と協力して、各教室の電波状況を測定し、「最適な通信環境」になるように対応してまいりました。

現在のところ、一宮中学校の校内通信回線利用量には、「問題が見られない」との報告を受けていますが、Wi-Fi で使用する周波数を変更したり、電波強度を調節したりしながら様子を見ているところであります。また、問題の発生原因が校内のネットワーク以外のもの、例えば、通信機器、あるいはアプリやタブレット端末、その他、学校外の一般回線の混雑等に起因するものがないかについても、調査を続けております。原因が特定でき次第、ご報告と環境改善の取組をさせていただきますが、生徒の皆様も、問題が発生した時には、学校の先生を通じて、具体的な内容を教育委員会まで報告していただくなど、原因の特定にご協力をお願いしたいと存じます。

昨年度までのハード整備から、今年度は授業改善や学力向上に活かすソフト対策へと変革を目指しております。児童・生徒の皆様が授業の中で「分かった！」という喜びを何度も味わうことができるよう、学校の先生方と一緒に努力を続けてまいります。一緒にがんばりましょう。

頼 美樹 議長：

6 番。青柳中学校、宮尾縫依議員。

青柳中学校 宮尾縫依議員：

青柳中学校の、宮尾縫依です。私は LGBTQ+ などの方々が使用するトイレなど LGBTQ+ の方々への支援の取組についてお伺いします。

青柳中学校では、来年度から制服をジェンダーレス制服に変えるための取組を、現在行っています。その中で LGBTQ+ の方々について、考える機会も多くなりました。そこで、学校のトイレは基本的に、男子、女子の区別でしか設置されていないことを、疑問に思うようになりました。

また、公共施設等にある多目的トイレでは、障がい者の方のためのマークしかありません。LGBTQ+ の方々は障がいを持っているのではなく、1つの個性だと思うので、このトイレを使用するのはおかしいのではないかな、と感じました。そこで、障がい者の方のマークだけでなく、誰でも使用できる



ようなマークに変更したり、多目的トイレの設置率を高めたりするなど LGBTQ+の方々への支援の取組について行われていることがあれば教えていただきたいです。

高知市は「にじいろのまち」として、SDGsの5番目にあるジェンダー平等を実現させていくためという方針が掲げられていると思います。そのためにも、このような政策は必要なことだと感じました。最後に、私たち中学生がジェンダー平等を実現させていくために、取り組めることがあればお伺いしたいです。どうぞよろしくをお願いします。

頼 美樹 議長：

谷脇 市民協働部長。

谷脇 市民協働部長：

皆さんの学校での制服の変更のことについても、一つの表れだと思いますけれども、最近、「性の多様性」に関する社会的な関心が高まっており、性的マイノリティの方々への理解や支援も広がってきています。そうした中で、高知市も、令和2年11月に、「高知市にじいろのまち宣言」を行い、多様な性の在り方に関する正しい理解の普及と、すべての人の性的指向・性自認に配慮した取り組みを積極的に進める意思と姿勢を表明いたしました。

宣言後には、私たち市の職員が性的指向・性自認に関する理解を深め日々の業務の中で適切な行動ができるよう、「にじいろのまち・職員ハンドブック」というガイドブックを作成しました。

また、同性カップルなどが、お互いを人生のパートナーとして、日常生活において相互に協力し合う関係にあることを市に登録することができるパートナーシップ登録制度の運用も始めております。ご質問にありましたトイレの利用等における配慮につきましても、先に申し上げたガイドブックの中で、性自認に配慮し本人の意思をなるべく尊重した対応や、他の利用者との調整をどのように行うか、を検討する必要性に触れています。

その中で、多目的トイレの活用は有効な手段の一つでございますけれども、全ての施設で対応できているわけではないのも現実です。また、当事者の方がその使用を強要されることには問題もあると考えております。

そうした面から市の方では、性的マイノリティの人々の生きづらさにつながる具体的な事例を社会全体で共有するとともに、性的指向・性自認のあり方は多様であるということを前提として、柔軟な対応に努めていくことが大事だと考え、多様性を理解し支援する輪を広げる取組や、市民・事業者のみなさんに向けた出前講座等の啓発活動を行うとともに、男女共同参画センター「ソーレ」の方では、性的マイノリティの方々からの相談を受ける「にじいろコール」という専門相談電話を開設するなどの取組を進めています。

ジェンダー平等や性的多様性の実現に向け、みなさんに取り組んでいただきたいことについては、3つのことを申し上げさせていただきたいと思います。

1つは、「性にはさまざまな要素があり、その組み合わせは多様で、人の数だけある」「性的指向や性自認は、全ての人共通して持っている属性である」というセクシュアリティと人権に関わる概念である「SOGI」の考え方を正しく学んでいただきたいということ。

2つ目は、自分の身の回りの慣習や常識の中に、性的指向・性自認に関する差別やハラスメントにつながるものはないか考えること。

3つ目は、性の多様性を理解し支援する輪の中に加わっていただくこと。

例えば、高知市が作成しているミニフラッグやピンバッジ、少し小さいけれどもここにあります。これを活用して多くの人が理解者・支援者であることを表現することが、性の多様性を尊重するメッセージとなり、多様性を相互に尊重する社会の扉のカギとなります。

一人一人のこうした取組で、性のあり方に関するあらゆる差別や偏見がなくなり、性の多様性を認め合うことがあたりまえの、さまざまな違いを持った人々がお互いを受け止め合い共に生きる共生社会の実現につながっていくことを願っているものです。

みなさんのご協力をよろしくお願いします。

頼 美樹 議長：

7番。朝倉中学校，大野 陸斗議員。

朝倉中学校 大野陸斗議員：

朝倉中学校の大野陸斗です。世代を超えた地域交流について質問します。現在、インスタグラムやTikTokなどのSNSを通じて、私たちと同世代である10～20代間の交流や発信が可能になっており、スマートフォン一つでいつでも、どこでも、どんなときでも自分の思いを世界中に発信することができます。それが時としてトラブルを生むこともありますが、それ以上に時と場所を必要とせず、気軽に人と交流できることへのメリットの方が大きいと考えます。

その一方でここ数年は、コロナの影響により各種行事や地域のイベントが相次いで中止となり、地域間の交流が希薄になってきていると感じています。朝倉地区で言えば、清掃ボランティア、あいさつ運動、地域のお祭りなどです。地域との交流は、南海トラフにおける「共助」という点で重要な立ち位置ではないかと私たちは考えています。そこで、高知市ではWith コロナの時代に対応した地域間交流において、どのような取組を行っているか教えてください。

頼 美樹 議長：

岡崎市長。

岡崎 市長：

重要なお提言をありがとうございます。どこかで南海トラフ地震は来ますので、普段から日常的に地域の様々な交流を行っていった方がいいというふうに言われてますし、東日本大震災の被災状況を見ましても、普段から交流が活発にある地域とそうでない地域とでは、いわゆる支援活動等がやはりかなり違いますので非常に重要な視点のご提言をいただきました。

今年もですね、去年、令和2年、令和3年と各学校にそれぞれあります夏祭りなどもですね、ほとんど中止となっております。今年はどうなるかなと思いましたが、やっぱりやられていないところが多いので我々も残念には思うところでもございます。

コロナの影響でやむを得ないという状況が続いております。それぞれの地域の活動の中では、日頃の例えば町内会の中での清掃活動等を通じた交流が育まれる地域などは普段から地域の困りごとを助け合うという機運はありまして、仮にこのまま、コロナの状況が続いて地域の人々が集まる機会そのものが減ってしまいますと、人々の交流が減っていくということも心配しております。

また、それぞれの学校でないところもありますけれども、それぞれの学校で夏祭りを行ってきたそれぞれの地域では、夏祭りの開催までに、色々な会合を重ねる機会はたくさんありますので、その中でやはりコミュニケーションが自然とできてくるというのが一つのいいところではないかというふうに思っております。

ただ、コロナ禍の中でいろいろな活動に制限がありますので、やはり工夫がいるという状況になっております。例えば、潮江南小学校区の地域では、地域で活動する様々な団体が集まってお互いが連携協力していく町づくり活動を行う、我々は地域内連携協議会と呼んでおりますけれども地域内の連携協議会の中で、コロナ禍の中でも子どもたちが参加できるような地域イベントが何かないのかということ色々な協議をしていただきまして、話し合いクラウドファンディングを活用して資金を集めまして、最終的には何をやったかといいますとこれはサプライズで地域で花火を打ち上げる活動ということを行った事例もあります。

また、高知市には先ほども少し触れましたけれども、子どもさん、小学生、中学生、高校生などですけれども、子どもさんの活動を支援する、高知こどもファンドという仕組みもあります。色んなあの活動の支援もこれまで行なってきたりまして最近では、防災の提案も非常に多くて、ある中学校の生徒さんたちのグループでは、防災のイベントを開催いたしまして、イベントの周知や宣伝に SNS、インスタグラムなどを活用した事例もあります。

また、活動をそれぞれ支援してくれる大人の方々の団体とですね、この子供さんたちはラインでつながりまして、ラインでの色々な意見交換等も行っております。また、我々も非常に感心するのですが、最近の方々に中学生の方々が集まってくると、お互いの携帯電話の赤外線メールアドレスの交換をよくやっていますけれども防災関係のこういう会では皆、集まってくるとアドレスの交換をやってですね、その日の内にアドレス帳ができたりしているので、そのアドレス帳ができれば、また次の連絡に行けるという、非常に SNS を日常的に活発に使っているなということに感心をするとところでございます。

また、こどもファンドの一つの事例ですが、青柳中学校の近くには高須の方に絶海池という非常に大きな池がありまして、そこで地域の環境美化のために清掃活動を行っていただいておりますので、ここには地域の方々が当然参加してまいりますので、新しい交流も生まれてきております。ご提言ありましたように、with コロナで何もできないというのもあまり良くないので、コロナ禍の中でもどうすればできるかということは非常に重要な提言ですので、皆様方の今、いただいたようなご意見も参考にしながら、地域とつながっていく環境ということを我々も考えていく必要があるというふうに考えております。

それぞれ誰もが安心して暮らせる町づくりというものを目指しておりますので、また皆様方ほんとに日常的に SNS を使われておりますので、そういう意味でノウハウを持たれているので、また、こういう提言を基にしてどういう形でできるのかということは我々も積極的に考えていきたいというふうに思っておりますので、また学校と連携ができそうなことがあれば、ご協力いただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

頼 美樹 議長：

8 番。三里中学校、岡林水希議員。

三里中学校 岡林水希議員：

三里中学校の岡林水希です。高知市男女共同参画推進プランについてお伺いします。

最近、テレビで男女差別の話題をよく見かけるようになりました。しかし、私は実際に普段の生活の中で身近に性別で差を感じたことはありませんでした。本当にそのような問題があるのかと思って調べ、いくつかのグラフを見つけました。こちらのグラフをご覧ください。

書画カメラお願いします。(資料提示) このグラフによると、学校教育などにおいては多くの人が「平等である」と感じていますが、社会においては、「男性の方が優遇されている」と感じている人のほうが多いことが分かります。これを見て、将来、わたしたちが大人になったとき社会に出たとき、社会の中で差別に出会うことがあるのだろうかと不安に感じました。

また、このグラフをご覧ください。特に育児や介護の場面で男女共同参画が求められていることが分かります。私は先日、公民の授業で少子高齢化問題について学び、その中で、少子高齢化問題の原因のひとつとして「女性の負担の増加」が挙げられていることを知りました。

次にこちらのグラフをご覧ください。このグラフによると、女性の負担の増加と男性の育児・介護の参加率の低さは「職場の理解が得られない」という社会の姿勢や、「育児や介護は女性の役割である」という男女双方の意識から来るようです。このことから、男女共同参画推進プランは、女性の負担の軽減、少子高齢化問題の解決にもつながるのではないかと考えました。特に高知県は、全国に比べて子育てをしながら仕事を続ける女性の割合が多いにも関わらず、男性の家事・育児の時間は全国平均よりも短くなっています。書画カメラ終わります。

そこで、「男女共同参画社会」を目指して、高知市で実際に行われている取組や、私たちが普段の生活の中で取り組めること、心がけたら良いことなどがあれば、教えていただきたいです。よろしくお願いします。

頼 美樹 議長：

谷脇市民協働部長。

谷脇 市民協働部長：

高知市では、「男女が互いの人権を尊重し、性別にかかわらず対等な構成員として社会のさまざまな活動に参画し、その個性と能力を十分に発揮している」そんな社会の実現に向け、5項目の基本目標からなる「高知市男女共同参画推進プラン2021」を策定し、この計画に基づく取組を進めています。

わが国における男女共同参画社会実現の大きな壁になっていると考えられているのは、「男性は仕事、女性は家庭」に代表されるような固定的な性別役割分担意識やそれに基づく慣習、制度等の存在です。

そこで、高知市では、「一人ひとりの人権が尊重される社会をつくりましょう」という基本目標にかかる取組のなかで、固定的な役割分担意識を解消し、男女共同参画やジェンダー平等への理解を進めるため、毎年8月1日を「高知市男女共同参画の日」と定めて広報・啓発を行っています。その中では、市民の皆様にも男女共同参画を題材とした川柳と写真の啓発作品の募集を行っており、小学生からご年配の方まで幅広い世代の方々に応募いただいています。市民の皆様には、作品を通じて身近に、

「自分事」として男女共同参画やジェンダー平等を考えていただくきっかけにさせていただいております。

また、「家庭や働く場においてジェンダー平等を実現しよう」という基本目標に関しては、誰もが社会の対等な構成員として、家庭や働く場において、それぞれの意欲や能力を十分に発揮できることが重要であると考え、ワーク・ライフ・バランスの推進や女性の活躍などに積極的に取り組んでいる民間の事業者を表彰する取組を行う一方、市役所でも、働く男性職員の育児休業の取得を促進する取組に力を入れています。

また、市役所の各担当部署においては、保育サービスや子育て支援体制の充実、介護をとりまく環境整備など、女性も男性も個々のライフステージに応じた多様な働き方や社会参画のあり方が選択できる環境を整えていくための施策等も進めています。

男女共同参画やジェンダー平等が実現した社会とは、誰もが自分らしく生きることができる社会です。そこで、皆さんには、なによりも自分自身がかけがえのない大切な存在であることを忘れず、ジェンダーに基づく「こうあるべき」という固定観念にとらわれず、自分のやりたいことや生き方について考えてほしいと思います。

そうした一人ひとりの異なる生き方や考え方を尊重することがこれからの、ジェンダー平等社会を実現する原動力になると思っています。

頼 美樹 議長：

9番。南海中学校、江口拓海議員。

南海中学校 江口拓海議員：

南海中学校の江口拓海です。特別教室のエアコン設置について普通教室にエアコンが整備されたことにより、暑さや寒さに関係なく学習に集中できるようになり、大変感謝しています。ただ、よく使う特別教室には、まだエアコンが設置されていません。書画カメラお願いします。(資料提示)

南海中では特に使用率が高い美術室・音楽室にエアコンを設置していただきたいです。どちらも校舎の最上階にあるため、熱がこもりやすく、室内温度30度を超える日が多くありました。昨年度も、その中で全員がマスクを着けているため、授業中に暑さで熱中症に近い症状で体調不良を訴える生徒が多くいました。そのためエアコンのある教室でやりたいのですが、以下のような問題が生まれます。

まず、美術では、普通教室の机は作業用に作られているわけではないので、作業に必要なものがおけず、大変混雑した学習環境になってしまいます。特に水入れの水を教室でこぼすと、タブレットPCなどにかかるのではないかと心配です。

また制作の中ででる木の粉・石の粉などの粉塵は教室を大変汚してしまい後の授業の迷惑になることもあります。さらに、制作に使うような大きな道具は教室に運べないという問題もあります。また、音楽の授業では多くの音楽の授業の中でピアノが必要になります。昨年普通教室で授業を行ったところ授業中に音が出るので、他のクラスから音が気になるという声が多くあがっていました。音響設備の問題や箏などの楽器の使用の問題もあります。またどちらの教室も教科の授業だけではなく他の教科での使用・部活動・総合的な学習の時間・特別活動の時間などでの活用や個別対応などの使用により、教室と同じ程度の使用率があります。書画カメラ終わります。

このような理由から、特別教室の中で特に使用率が高い美術室・音楽室にエアコンを設置していた

だきたいです。よろしく申し上げます。

頼 美樹 議長：  
松下 教育長。

松下 教育長：

特別教室へのエアコン設置についてお答えいたします。平成30年度の災害級とも言われた猛暑に起因する健康被害の発生状況等を踏まえ、国が全国一律で普通教室等に空調を整備するため臨時特例交付金を創設いたしました。

本市におきましても当該交付金を活用し、普通教室784室への空調整備を行いました。特別教室につきましては、学校の状況等に応じて、図書室等について個別に対応してきた経過がございます。

令和4年4月現在の市立学校すべての特別教室等1,116教室中、設置済は368教室で、設置率は32.9%と、まだ整備が進んでいないのが現状であります。

エアコンの設置は、機器の設置費用だけでなく、高圧の電気を低圧に変換する設備等の改修等も必要になる場合がございますし、運転するための電気やガスの使用料など多額の費用が必要となりますことから、課題が多くあることが現状であります。

教育委員会におきましては、近年の異常気象等の影響を考えますと、普通教室と同様に特別教室へのエアコン設置の必要性も感じているところではあります。特別教室へのエアコンの設置は、設置に係る費用だけでも、1教室あたり130万円、現在未設置の748教室につけるとして約10億円の費用がかかります。

また、維持管理に要する費用として電力使用料だけでも、現在中学校全体で年間約7千5百万円を使用し、さらに増加が見込まれる等の課題もございます。

課題はございますが、ご質問の中にもございましたように近年の気象状況により健康に対する懸念も考えられますので、課題を整理しながら、検討を進めてまいりたいと考えております。

頼 美樹 議長：  
10番。西部中学校，岡林果歩議員。

西部中学校 岡林果歩議員：

西部中学校の岡林果歩です。私は、防災について学べる場所「防災センター」について、提案させていただきます。

私たちが住んでいる高知市は、南海トラフ大地震が40年以内に90%の確率で起こるといわれています。南海トラフ大地震に備えて、高知市の学校では、避難訓練や防災学習が行われています。

しかし、大人の皆さんはなかなか体験したり学習したりする機会が少ないのではないのでしょうか。他県を見ていると、兵庫県では「人と未来防災センター」があるように、被災したときにどのように命を守っていったらよいか学んだり、生活できる場所を段ボールで作成したりするような場所や阪神淡路大震災のようすを実際に体験できる場所があります。

そこで、高知県でも、誰が行っても防災の情報を得ることができる「防災センター」のような場所の設立を提案します。例えば、防災のクイズなどに挑戦しながら学習できる場所、非常持ち出し袋の

中身の展示，またはそこで展示されているものを買える売店があれば，老若男女誰でも楽しみながら防災について詳しく知る機会が増えると思います。

南海トラフ大地震に備えているのは高知県民，他県の人々も同じことですので，きっと大きな話題にもなると思います。色々な問題点はあるかもしれませんが，純粋な思いとして提案させていただきたいです。いかがでしょうか。

頼 美樹 議長：

有澤 防災対策部長。

有澤 防災対策部長：

高知県全体を通して，防災対策に問題意識を持っていただき，市民の皆様への防災啓発に繋がる具体的なお提案をいただきまして，ありがとうございます。

防災対策につきましては，行政での取組である公助では限界がありますので，自分や家族の命は自分達で守り，地域や周りの人達と協力して助け合うという，自助・共助の取組が重要となり，それらに繋がる市民の皆様への防災意識の向上のためには，ご提案をいただきましたように，普段から防災啓発を行っていくことが重要であると考えております。

令和3年度の市民意識調査でも，南海トラフ地震で想定されている震度や津波浸水について，何も知らないとお答えになった方が，約2割いらっしゃることなどからも，今後も引き続き防災啓発の取組を推進する必要があると考えております。

現在の高知市が取り組んでいる防災啓発としましては，ハザードマップの配布，広報誌，ツイッターによる啓発の他，オーテピア高知図書館にも，3階に防災コーナー，5階の高知みらい科学館に，地震と津波の発生メカニズムが分かるデジタル地球儀を設置しております。

また，例年，6月から8月に，「れんけいこうち防災人づくり塾」と題しまして，防災分野の専門家をお招きし，全8回の講座を実施しておりますほか，高知県や本市が主催する総合防災訓練では，国や自衛隊，防災関連の事業者にもご協力いただきまして，パネルや特殊車両，防災関連製品の展示ブースや地震や大雨などの体験コーナーも設置をしておりますので，是非，ご参加いただければと思います。

ご提案いただきました防災センターの設立につきましては，運営や維持管理も含めた公共施設のあり方や財政面での課題などが多く，現状では困難であると判断しておりますので，中長期的な課題として検討していきたいと考えております。

一方で，高知県には様々な災害リスクが存在し，多くの県民の皆様に関心する具体的な体験や学習をしていただくことは意義深いこととありますので，ご提案の趣旨は，県にお伝えしたいと考えています。

防災啓発につきましては，引き続き様々な機会を通じて進めていかなければなりませんので，若い世代の皆様への柔軟な発想によるご提案を今後ともよろしくお願いたします。

頼 美樹 議長：

11番。愛宕中学校，村木琉華議員。

愛宕中学校 村木琉華議員：

こんにちは。愛宕中学校の村木琉華です。私たち愛宕中学校は、避難所開設や運営に備えた学校、地域、行政が一体となった共同訓練についてお伺いします。

南海トラフ地震などの自然災害が起きたとき、大抵避難所に指定されているのは学校です。学校で授業を受けていたり、部活動をしていたり、私たちが、学校にいる間に南海トラフ地震などの自然災害が起きることも想定しておく必要があると思います。

もし、自然災害が起きたときには、大勢の人が学校に避難し、何日も一緒に生活していくことになります。そうなれば、不安もありますが、私たち中学生も高知市民として避難所開設や運営のお手伝いをしていく必要があると思います。

そこで高知市において、学校、地域、行政が一体となった避難所開設や運営の共同訓練がどの様に実施されているか、その状況と今後の取り組みについてお伺いしたいです。また私たち中学生が避難所開設や運営にどのように関わっていけばよいかも教えていただきたいです。

以上で、私からの質問を終わらせていただきます。ご回答よろしくお祈いします。

頼 美樹 議長：

中澤副市長。

中澤 副市長：

防災に関する質問をいただき、ありがとうございます。中学生の皆さんが、災害時の避難所開設や運営について関心をお持ちいただいていることに、大変心強く思い、感謝を申し上げます。

南海トラフ地震等の大規模災害が発生した際、行政の職員が各地域の避難所にすぐに駆け付けて全に対応することは困難ですので、高知市では地域の方々为主体となって避難所の開設や運営を行っていただけるよう、自主防災組織等の皆さんと一緒に避難所運営マニュアルの作成や改訂を進めています。

このマニュアルが作成された地域では、自主防災組織などの皆さんを中心に高知市の職員も参加して避難所の開設や運営訓練を実施しており、避難所となった学校の生徒の皆さんにも参加していただいている地域もあります。

高知市としましては、大規模な災害が発生したとき、避難所では避難をしてくる方々の受け付けや支援物資の受入れなど、様々な役割があって、大勢の担当者が必要となりますので、生徒の皆さんにも出来ることについては可能な範囲でご協力いただきたいと思います。

そのためにも皆さんには、是非とも地域や学校での防災訓練や防災学習等を通じて、ご自身の防災力の向上を図っていただき、災害時にそれを活かして積極的に避難所等の運営に関わっていただきたいと考えているところです。

愛宕中学校におきましては、来年1月に自主防災組織の皆さんと一緒に避難所開設訓練を計画していると伺いました。

皆さんがこうした訓練に参加いただくことは、地域の方々にとって、また行政にとりましても大変心強く意義のあることだと考えていますので、訓練の中で多くのことを学ばれ、これからの地域防災を担っていただける人材となっただけを大いに期待いたしております。



頼 美樹 議長：

この際、15分間休憩いたします。14時25分より会議を再開いたします。

【 休 憩 】

島崎彩花 副議長：

それでは、休憩前に引き続き、会議を開きます。議長を交替しました。ここからは、城東中学校 島崎彩花が議事を進行します。よろしくお願いします。

島崎彩花 副議長：

高知商業高等学校、岸本陽奈議員。

高知商業高等学校 岸本陽奈 議員：

高知商業高校の岸本陽奈です。私達、高知商業はこれまでにラオス学校建設活動の推進を目的に、その手段として高知の特産品を使用した商品開発を数多く行ってきました。特に2018年より3年間の年月をかけて開発したグローカルバウムは販売開始から累計63万個を超える大ヒット商品となっており、コロナ禍においても購入型クラウドファンディングの対象商品にすることで全国各地から250万円以上を超えるご購入がありました。書画カメラお願いします。(資料提示) その結果、昨年8月にはラオスに9校目となるサンニヤイ幼稚園の建設を実現しました。こちらがそのサンニヤイ幼稚園です。書画カメラ終わります。

このように高知の第一次産品を活用してきた一方で、高知のお茶の生産量は後継者不足により年々減少しています。私の故郷である仁淀川町の沢渡茶も同じ現状にあります。

そこで私は故郷の風景を守り抜くために高知商業生による「沢渡茶6次産業化プロジェクト」を提案し、現在その挑戦をすすめています。具体的には高校生である私達が沢渡茶畑の運営から生産、加工、販売、そのすべてに携わります。そして将来は生産した「沢渡茶」の魅力を県内外の方々にPRすることで後継者不足解消を目指します。

そこで高知市のみなさまにお願いがあります。高知市役所を訪れた方々をおもてなしする際、私達高知商業生が生産した「沢渡茶」にてお客様をおもてなししていただけませんか。それにより土佐の魅力あるお茶を県外に広げるPRの場となると考えます。

どうぞよろしくお願いいたします。

島崎彩花 副議長：

岡崎市長。

岡崎 市長：

高知商業高校の皆さま方はですね、本当に高知商業高校らしく様々な活動を展開されておられました。先ほど紹介もありました、いくつかの学校支援、これが9校目ですけれども、先ほど、ご紹介もいただいた件ですごくきれいな9つ目の幼稚園の建設が進んでおりまして、非常に敬意を表するところでございます。また、SDGsの推進にも貢献をいただいております、感謝申し上げたいと思います。

また、高知商業高校が平成 30 年に先ほども紹介がありました、県内の企業さまと共同開発されました「グローバルバウム」、私も何回か食べたこともありますし、購入したこともありますけれども、今現在 60 万個まで売り上げを伸ばしておりますので、高知商業高校は様々な商品開発をされておりますけれども、その中でも、一番のヒットではないかという風に思っております。また、最近はいわゆるグアバを活用したお菓子や、ノンアルコールの除菌のシートなどが開発をされておられまして、私のところにもいくつか商品を持ってきていただいたこともあります。

今回、先ほど、ご提案のありましたいわゆる「沢渡茶」ですけれども、3 か年計画のプロジェクト計画で、今、取り掛かっているという風に聞いておりまして、素晴らしいお茶なのですけれども、いわゆる農業従事者の高齢化や後継者不足という課題がありますので、その点を含めて積極的に取り組んでいるということで、大変意義ある取組だというふうに思います。

私のところへも3種類持ってきていただいております、この間はほうじ茶をいただきましたけれども、こういうパッケージに入った種類の「沢渡茶」私のところにも今3種類きておりますので、また、これから開発していくのかなというふうに思っております。現在、私のところを含めまして、市長、もしくは副市長のところの外部からのお客様には、高知県産のいわゆる緑茶を中心にお出ししています。

高知商業高校の皆さま方が、今開発中の「沢渡茶」でおもてなしをするということは、地産地消にもつながりますので、良いアイデアだと思っております。

最終的には商品開発が、令和6年とも聞いておりますが、その手前でまた開発されれば、また、その手前でも構わないので持ってきていただければというふうに思います。

私どもの方でも協力ができるというふうに思っておりますし、またいろんな所でこういうものありますよという紹介もできますので、また開発が完成されましたら、また我々のところへも持ってきていただけたらできる限りの協力をさせていただきたいと思っております。

高知はもともとが素晴らしいお茶の産地でございます、環境にも非常に素晴らしい所のお茶がたくさんありますので、やっぱりそれをできるだけ守っていくという取組は重要な取組だというふうに思っております。皆様方の取組に期待をいたしますので、頑張ってくださいと思います。以上です。ありがとうございました。

**島崎彩花 副議長：**

13番。介良中学校, 中川結唯議員。

**介良中学校 中川 結唯議員：**

介良中学校の中川結唯です。避難場所にペットの連れ込みが可能なエリアを作ることについて質問させていただきます。私は地震発生時に、ペットを飼っている人がペットと共に安心して避難できる場所が必要だと考えます。このことはペットを飼っているすべての方に同じことが言えると思います。

これから起こると予想されている南海トラフ巨大地震について学校で学習し、実際に避難訓練で、屋上に避難した時に私は考えたことがあります。

それは、この場所にペットと共に安心して避難することができるかどうかということです。書画カメラをお願いします。(資料提示) これは、私たちが避難する介良中学校の屋上の写真です。屋上の高さ

まで避難すれば津波から命を守ることはできると考えます。書画カメラ終わります。

環境省の「災害時のペットとの同行避難について」のパンフレットなどによれば、飼い主のやるべきこととして、ペットの受け入れ対応を含め、事前に避難場所の確認をするよう示されています。先ほど見ていただいた本校の屋上のような場所であれば、ペットと共に避難したとしても落下の危険性は少ないと思います。

しかし、場所によっては、格子状のフェンスではなく、手すりがついている避難場所もあるということを知っており、そのような場所では、隙間などから落下の危険性があり、避難したにも関わらず、命を落としかねません。

一方、動物が苦手な方やアレルギーを持っている方もいます。こうした動物も私たちが安心して避難するためにも、避難場所にペットのエリアとして柵やフェンスの整備していただきたいと考え、この質問をさせていただきました。

ご回答よろしくお願いたします。

**島崎彩花 副議長：**

有澤防災対策部長。

**有澤 防災対策部長：**

ペットを飼っている皆さんが、災害時に人の命を守り、ペットの命も守るための備えを考えておくことは、大変重要なことであると考えております。

災害時におけるペットの避難については、2つのケースが考えられます。

まずは、緊急避難場所への避難です。

介良中学校など、津波発生時における緊急避難場所として指定している津波避難ビルは、7月1日現在で338施設ありまして、学校などの公共施設だけでなく、マンションや企業のビルなど、民間施設も多くあります。

津波避難ビルの避難スペースは、一定の高さが必要ですので、原則、3階の屋上または建物の4階以上としています。屋上においては、介良中学校のように高い網目状のフェンスに囲まれた施設もあれば、縦型の手摺に囲まれた施設もありますので、小型のペットでしたら、手摺の間をすり抜けてしまう可能性も否定はできないと考えています。

全ての津波避難ビルの避難スペースにペット用の柵やフェンスがあれば安心ですが、こういった避難スペースは、施設ごとにそれぞれ日常の用途がありますので、平時より津波避難時のペット用スペースを整備することは難しいと考えております。

そのため、ペットを飼っている方には、普段から避難に必要な物を用意したり、ゲージに慣れさせる等の準備をしていただき、飼い主ご自身でペットの命を守っていただくと同時に、避難者の中には、動物が苦手な方やアレルギー等をお持ちの方もいらっしゃいますので、避難場所へはゲージに入れて避難する等、他の方へもご配慮いただきたいと考えております。

次に、被災された方が一定期間生活を送る避難所では、ペットの同行避難が可能となるよう、多くの避難所においてペットスペースや避難生活におけるルールを決めていますので、本市ホームページでお近くの避難所の運営マニュアルを確認していただき、ペットと避難者の方がより良い避難生活を送れるよう、普段からの準備をお願いいたします。

**島崎彩花 副議長：**

14番。大津中学校，池田彩乃議員。

**大津中学校 池田彩乃 議員：**

大津中学校の池田彩乃です。定年後の仕事についてお伺いします。少子高齢化が進む中，これからさらに定年後も仕事を続けていきたい人が増えてくると思います。

実際に私の祖父も現在，シルバー人材センターの活動として，観光ボランティアを行っています。観光客の方に質の良いガイドができるよう，いつも欠かさず下見に行ったり，事前に内容を調べたりと，仕事に誇りを持ってとても誠実に活動しています。

祖父自身は，定年後に働くことができることにとても感謝をしているようですが，やはりボランティアとは言えど，仕事内容に対しての報酬が少ないように私は感じます。

これから，高知県には65歳以上の人たちの割合が高くなり，社会の様々な仕事をこのような人達に頼ることも多くなるでしょう。ぜひ，こういった仕事の手当てが今後どのように変わっていくのか，教えていただきたいです。

また，最近は新しい文化や仕組み，考え方を取り入れる風潮がありますが，長い間生きてきた方の知恵を，こういった退職後の仕事で生かせないでしょうか。今のお年寄りの方たちには，私たちにはない巧みな技術を持った人がいますが，それをどのように広めればよいのか分からない人が多いように思います。

現在，市で行っている取組や，これから行う予定の取組があれば教えていただきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

**島崎彩花 副議長：**

今西商工観光部長。

**今西 商工観光部長：**

質問議員さんにおかれては，おじいさまのボランティア活動から見えた疑問を出発点に，高齢者の方々が長い時間の中で培われた知恵や技術を生かす方を課題にするなど，重要な視点での質問をいただきました。誠にありがとうございます。

さて，ご質問の中で指摘いただきましたように，労働力人口に占める高齢者の割合は増加しており，総務省が実施している労働力調査によると，15歳以上の労働力人口に占める65歳以上の方の割合は，平成23（2011）年の8.9%から，令和3（2021）年の13.4%と，10年間で約1.5倍となっております。

こうした中，国では，働く意欲のある高齢者の方々が活躍できる環境を整備するため，「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」におきまして，平成25年4月から，雇用主に対し65歳までの雇用確保を義務付けており，また，昨年の法改正では，さらなる定年の引上げや有償ボランティア活動などによる70歳までの就業機会の確保を，新たに努力義務として追加をしています。

また，ご質問にありました報酬につきましては，法改正を踏まえて厚生労働省が示しました「高年齢者等就業確保措置の実施及び運用に関する指針」において，「支払われる金銭については，制度を利用する高年齢者等の就業の実態，生活の安定等を考慮し，業務内容に応じた適切なものとなるよう努めること」とされていますので，合理的な報酬の支給が進むものと考えられます。

次に、本市の取組ですが、高齢者を含め、就職を希望する方々に対しては、「高知市無料職業紹介所」において、就職に関する相談の受付や、職業紹介などを行っております。

また、高齢者の皆様に就労の場を提供する団体である高知市シルバー人材センターに対して運営補助金を支出し、経験等をいかした高齢者の方々の有償ボランティアや生きがい活動に対し側面的な支援を行っております。

高知市の高齢化率は30%に達しており、高齢者の方々が長い間培ってきた知恵と巧みな技術を發揮し、継承していくことは、ますます重要となってまいります。

高知市としましても、現在までの取組を継続するとともに、国の方向性も踏まえながら、ご質問の高齢者の方々の経験を活かしながら元気で活躍いただける場が広がるよう、必要な取組を研究してまいります。

**島崎彩花 副議長：**

15番。旭中学校、藤澤かなう議員。

**旭中学校 藤澤かなう 議員：**

旭中学校の藤澤かなうです。私の祖母は海外留学に関わる仕事を行っております。先日、祖母と話をする機会がありました。話をする中で、海外留学はこれまでずっと先の事、または自分達には関係ない話だと思っていましたが、将来の職業について考え、高校進学を選択している私たち、いろいろな人の存在、多様性に目を向け考えるようになった私たち中学生にとって、身近なことではないかと考えるようになりました。

今年の旭中学校の生徒会スローガンには「個性が生きる」という言葉が入っています。この言葉には、自分の個性、友達の個性を認め合うという意味があります。そのような人になっていくために、コロナ禍の中でいろいろなことが制限されているからこそ、人との交流がより必要になってくるのではないかと考えます。

旭中学校では、2学期に海外留学生、または留学を経験した人との交流会を予定しています。そこでは、留学の話だけではなく、海外の人から見た日本、または現地の人との交流から気づいたことなどについて話し合いをもつ予定です。

そこで、高知市では、県内、県外、海外など、人との交流の在り方や必要性、意味をどのように捉え、そしてどのような取組を行っているのか、または行っていく予定なのか、教えていただきたいです。そして、私たち中学生として関わることがあれば教えてください。よろしくお願いします。

**島崎彩花 副議長：**

松下教育長。

**松下 教育長：**

旭中学校において、2学期に計画されている「海外留学生」「留学経験者」との交流会、素晴らしい取組であると思うと同時に、コロナ禍で制限を受けている今だからこそ、人と人との結びつきを大切にしようとして尽力される挑戦に、心から敬意を表します。

質問議員さんがおっしゃる通り、自分の個性、友達の個性を認め合うことができる人になるために

は、異なる環境や異なる価値観を持つ方々と触れ合うことが有効であると考えます。

本市の学校教育においては、長く、自分の意見を明確に持ったうえで、仲間に伝え、意見をもらい、さらに自分の意見を深める取組を、全ての教科や学校行事等で大切にしていまいりました。

これからも、各学校で実践されている自分と仲間の個性を大切にする教育を支援してまいります。

また、本市におきましては、中国蕪湖市と友好都市提携を、アメリカのフレズノ市、インドネシアスラバヤ市、北海道北見市と姉妹都市提携を結んでいるのですが、その交流の柱の一つとして、教育交流が位置付けられており、これまで多くの本市小・中・高校生が訪問するとともに、本市にお迎えして、互いの学校訪問等を通して交流を深めてまいりました。

昨今はコロナ禍等の影響で、残念ながら、直接的な交流は行えておりませんが、旭中の活動にもお習いすることや、近年急速に発達しております、オンライン上での交流も視野に入れることで、実施可能な交流を検討してまいります。

教育交流に参加された先輩たちは、「高知を離れたことで、高知の良さが改めてわかった」、「相手の国や地域の良さを聞くなかで、高知のことをもっと知らなければならなかった」との感想を述べていました。

中学生の皆様には、日々の学校生活における仲間や地域の方々との交流を大切にいただきながら、県外・国外の方々との交流の機会がありましたなら、ぜひとも高知のすばらしさを発信していただき、高知を愛する仲間を増やしていただく役割を果たしていただきますことを、心からご期待申し上げます。

**島崎彩花 副議長：**

16番。城西学校、上田義貴議員。

**城西中学校 上田義貴 議員：**

城西中学校の上田義貴です。働き方改革の具体的な取組について質問させていただきます。私は働き方改革がどのような形で、どこまで進んでいるのか気になっています。

近年、働き方改革において、週 40 時間労働制という言葉を目にします。

私はよく、先生方が午前 8 時ごろに来て、午後 8 時ごろに退勤しているのを見かけるのですが、それを考えると先生方は少なくとも週に 60 時間以上労働していることとなります。この現状は先生方だけでなく、多くの人にそれは当てはまると考えました。

現在コロナウイルスが流行しており、リモートワークが増えてきたと思いますが、高知市役所における働き方改革をどのように進めているのか、またコロナ禍において働き方がどのように変化してきたのかをお伺いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

**島崎彩花 副議長：**

橋本総務部長。

**橋本 総務部長：**

質問議員さんにおかれましては、ご自身の学校生活における気づきをもとに、本市職員に係る働き方改革への取組状況に目を向けていただきましたことにつきまして感謝申し上げます。

働き方改革につきましては、「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」や「育児と介護との両立など、労働者のニーズの多様化」などを背景として、平成31年4月から労働基準法の改正をはじめとした「働き方改革関連法案」が順次施行され、現在、民間企業だけではなく公務員においても職員が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できる改革として取り組まれております。

この取組の目的としまして、すべての職員がその能力を最大限に発揮し、限られた時間で効率良く高い成果を上げることにより、政策や行政サービスの質を向上させ、職員の「仕事」と「仕事以外」の調和を取り、その両方を充実させる、いわゆる「ワーク・ライフ・バランス」も実現させるということにあります。

高知市におきましても、働き方改革を推進するために時間外の勤務時間の上限を特別な事情がある場合を除き月40時間・年間360時間と定めた上で、ICカードによる出勤及び退勤時間の記録やシステムによる職員の時間外勤務時間の集計・管理を行っており、時間外勤務時間の集計の結果、一か月当たりの時間外勤務時間が100時間を超えた職員などにつきましては、医師による面接指導を行い、健康確保にも取り組んでいます。

また、多様な働き方を推進するため、情報通信技術を活用し、時間や場所の制約を受けずに働く「テレワーク」にも令和2年度から段階的に取り組んでおります。

また、両サイドのスクリーンに、今名前だけ表示しておりますが、御覧いただいておりますとおり、本日は松島副市長が公務のため東京へ出張しており、日程の都合上、対面での参加が叶わなかったものの、こうしてリモートで参加させていただいております。

情報通信技術の活用により、これまでであればどちらかの業務を選択するか、または身体的に負荷のかかる日程での対応が必要であった場面においても、過度な負荷をかけることなく効率的に業務を行うことが可能になっております。

また、日常業務においても「在宅勤務」を活用することにより、通勤時間等が削減され、その削減した時間を有効活用することで、特に子育て世代や家族の介護を行っている職員におきましては、私生活における家族の役割とのバランスがとりやすくなるなど、「テレワーク」は各職員のライフステージに応じた多様な働き方を実現する上でも有効な手段の一つでありますため、市民サービスを低下させないように留意をしながら、引き続き積極的な活用に取り組んでまいります。

現在、高知市におきましては、約2年数か月に渡り、新型コロナウイルス感染症関連業務の対応に当たっておりまして、特別定額給付金や子育て世帯への給付金などの業務のほか、特に保健所におきましては、ワクチンの接種推進や感染者への療養に関する説明、自宅療養者への食料品等の配送など、非常時の体制で対応しておりますことから、「ワーク・ライフ・バランス」という点においては以前に増して厳しい状況となっております。

こうした中でも、職員の負担軽減のために、前日遅くまで働いた職員が、翌日に少しゆとりを持って出勤できるように「遅出勤務」の制度を新たに導入するなど、コロナ禍を契機に、新たな視点で、職員の声も聴きながら、働き方改革に取り組んでおります。

こうした取組を通じて、個々の職員の事情に応じた働き方ができる魅力ある職場を作ることで、職員のモチベーションが高まり、行政サービスの向上とともに、人材確保にもつながっていくと考えられますので、将来、皆様方に就職先の候補として高知市役所を考えていただきますためにも、引き続き精力的に取り組んでまいりたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

島崎彩花 副議長：

17番。鏡中学校，カーン・マヤ議員。

鏡中学校 カーン・マヤ 議員：

鏡中学校のカーン・マヤです。私たちの学校では，地域の伝統文化継承のため，総合的な学習の時間に男子が「太刀踊り」を踊っています。小学校から練習をはじめ，毎年11月に大和地区の新宮神社で大人たちと踊ります。他にも，運動会や文化祭，地域の行事などで披露しています。資料を見てください。（配付資料）

赤と白に分かれて2人ペアで踊り，決められたステップを踏みながら，相手と息を合わせて刀を振ります。何度も練習を積み重ねているので，動きにキレがあり，揃っています。とても迫力のある，美しい踊りです。

「太刀踊り」には古い歴史があり，源平の戦いで逃げてきた平家の兵士たちが踊ったのが始まりと言われています。

私たちは，この踊りの素晴らしさは鏡だけでなく，高知市の財産にも値すると思います。歴史があり，見応えがあり，入念な練習がされている「太刀踊り」を，鏡地域の住民だけでなく，もっとたくさんの方々に見ていただきたいです。

そのために，鏡地域の「太刀踊り」を高知市の観光キャンペーンなどで紹介や実演をさせていただけないでしょうか。少しでも多くの人に，「太刀踊り」の魅力を知ってもらえるように，活動の幅を広げていきたいです。また，男子だけでなく女子も「太刀踊り」を踊れる機会を増やすなど，改善を重ね，より多くの人々に見てもらえるように活動したいです。なぜなら，この「太刀踊り」は永遠に続くものではないかもしれないからです。今の日本では，このような伝統芸能は失われつつある傾向にあります。せめて，まだ消えていない文化だけでも，みんなで守り温めていくべきだと思います。

さらに，少子化が進んでいる今，未来では「太刀踊り」を踊る子どもがいなくなるかもしれません。もっとたくさんの人たちに「太刀踊り」について知ってもらえたら，このような伝統文化の消失は妨げられと思います。また，鏡の「太刀踊り」だけでなく，他の地域の伝統文化も守っていこうという動きにもつながると思います。

ご回答をよろしくお願いします。

島崎彩花 副議長：

松島副市長。

松島 副市長：

（Zoomにて参会）松島です。皆様聞こえますでしょうか。はい。ご質問ありがとうございました。ご質問にありました大和の太刀踊りでありますけれども，私，生で見たことはないのですが，YouTubeですね，動画，YouTubeで拝見させていただきまして，今ご質問のあったように非常に動きにキレがあるというのと，もう一つはおそらく真剣を使っているせいだと思うのですが，色というか，光の反射というのが，本物ならではの迫力というかですね，そういったものを感じたというところで，また，大人と遜色ない小・中学生の動きと剣捌きも一見に値する踊りだなあというのが，率直な感想でございます。

また，何より，鏡が誇ります高知県で指定されておりますいわゆる無形民俗文化財の「大和の太刀



踊り」でございますけれども、やはり、大人ということよりも鏡の将来を担う子どもたちにより、行われていることは大変大事だろうなど、この伝統と文化を守って引き継いでいく必要があるのだろうなというふうに考えます。

現在、本市においては、年間を通じまして、様々なイベントをやっているわけですが、春ですと「高知城花回廊」や、秋ですと「龍馬まつり」、こういったご紹介いただいた太刀踊りの相性がいまいちと思われるイベントが何個かある状況であります。

また、新聞報道等でもご存じだと思いますけれども、桂浜公園、現在リニューアル工事中でして、2か月後の10月にいわゆるプレオープンというものを予定しております。そこでは、新しくイベントスペースが設けられるということを知っていますので、そういった場所でのリアルの実演をするということも考えられるということでもあります。

当然のことながらイベントの出演に関しましては、いわゆる主催者の方と調整していただく必要があるんですけれども、高知市としましても積極的に活動を紹介させていただきますし、鏡中学校の皆さんからも、さまざま太刀踊りの活動というものを情報発信していただいて、ぜひ、実演の機会を創出していきたいという風に考えております。

この太刀踊りというのを高知市の観光資源の一つとして、様々な場面で、市民の皆様、また、観光客の皆様を知っていただくということで、高知市の伝統文化の一つとして、未来に継続していくことにもつながるんだろうなと思っておりますし、先ほど、申し上げましたとおり、やはり他ならぬ自分たち、皆様方のお住まいの地域なので、お住いの地域の伝統文化をどんなふうにして守ってですね、どうやって次の世代に引き継いでいこうかと、そのために何をなすべきなのだろうかということを知問議員さんをはじめとしまして、地域の皆様方と共に考えてまいりたいと、このように考えておりますので、今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

**島崎彩花 副議長：**

18番。横浜中学校、森高真白議員。

**横浜中学校 森高真白 議員：**

横浜中学校の森高真白です。通学路の安全整備についてお尋ねします。この意見は、学校でアンケートを行ったときに出た意見です。

横浜中校区は坂道が多く、車との出会い頭事故が心配され、自転車通学で危ない思いをした生徒は何人もいます。特に、横浜新町から蒔絵台に降りる坂は車とぶつかりそうになって危ないという意見が聞かれました。そこで、私は実際にその通学路に行ってみました。書画カメラお願いします。(資料提示)すると、写真を見てもらうと分かると思いますが、入り組んだ住宅で、蒔絵台に降りる道の角にカーブミラーはありませんでした。

しかし、もう一枚の写真を見て下さい。自転車に対して「一時停止、左右確認」という看板があり、自転車と自動車に対して止まれの道路標識がありました。書画カメラ終わります。さらに調査を進めてみると、自転車と自動車どちらとも交通ルールを守れていないのではないかとということも分かってきました。

自転車の場合、止まれの標識があるのに止まらず、左側を走行せずに右折しようとするので危険性があると分かりました。

自動車の場合、スピードを出して坂を上がってきたり、歩行者優先にもかかわらず停止していなかったりが多かったです。ということは、一時停止やスピードを出さないなど交通ルールを守れば危険性が少なくなるということになります。事故が起きてからでは遅いので通学路の安全整備は大事だと思います。

そこで高知市に質問です。交通ルールを守ることを約束した上で、通学路であるその場所にカーブミラーをつけることは可能でしょうか。

**島崎彩花 副議長：**

岡崎都市建設部長。

**岡崎 都市建設部長：**

横浜中学校の生徒の皆さんにおかれましては、年間を通じて、道路の清掃や街路樹周りの草引き、また、花の配布や、よさこい祭り前の 8 8 <sup>ハチハチ</sup>ロードボランティアなど、地域の方々と共にさまざまな活動に参加していただき、ありがとうございます。

ご質問のありました、横浜新町から蒔絵台方面に降りる坂の交差点を、私も見てまいりました。この交差点を北側から右折して坂を降りて行こうとする自転車と、蒔絵台方面から坂を登ってくる自動車が、交差点で出会い頭に接触しそうな状況を確認しました。

その原因といたしましては、森高議員が調査された結果と同様に、一時停止や十分な左右確認を行わず交差点を斜めに横切る自転車と、十分にスピードを落とさずに坂を登ってくる自動車が、お互いの存在に気付くのが遅れることであると思われまます。

このような見通しの悪い交差点では、自動車もすぐに止まれる速度、いわゆる徐行で進入することはもちろんですが、自転車側も一時停止の道路標示に従い、一度止まって左右の安全を確認すること、また、交差点を斜めに横切ることなく、道路の左端を通ることなど、基本的な交通ルールを守ることが交通事故防止には重要となります。

ただ、この交差点は少し変則になっておりまして、安全確認がしづらいことから、自転車や自動車がお互いの存在を確認するための補助施設として、カーブミラーを設置したいというふうに考えております。

カーブミラーを設置する場合には、住宅や車庫等への出入りに支障とならないことなど、設置にあたっては住民の皆様の協力が必要となりますので、今後、設置するための調整を進めていきます。

引き続き、横浜中学校の皆さんも、正しい交通ルールを学び、実践していくことで、交通事故のない安全で楽しい学校生活を送っていただきたいと願っております。

**島崎彩花 副議長：**

19番。春野中学校、坂上侑生議員。

**春野中学校 坂上侑生 議員：**

春野中学校の坂上侑生です。学校の手洗場の蛇口とハンドソープの自動化についてお伺いします。新型コロナウイルスが流行してもう3年になります。しかし、一向に新型コロナウイルスを完全に抑え

ることができていません。私たちが中学校に入学してきたときには、もうすでにコロナ禍であり、入学式・体育祭・文化祭・修学旅行・職場体験学習などの学年行事や学校行事も全て延期や短縮となり、我慢と辛抱の3年間だったように思います。それでも私たちは日頃のマスクの着用、こまめな手洗いやアルコール消毒、ソーシャルディスタンス、3密を避けるなど、自分たちでできることを協力してやってきましたが、新型コロナウイルスは収まることなく増え続けていきます。

そんな中、学校が手をかざすだけで消毒液が出てくる機械を生徒玄関と各教室前の廊下に1台ずつ設置してくれました。それによって、生徒みんなの消毒に対する意識が強くなったと感じています。給食前や登下校時に気軽に消毒をする人が増えてきました。これに倣い、手洗場の蛇口とハンドソープも自動化にすることによって、生徒一人一人の手洗いに対する意識も高まると同時に、学校の手洗場は多くの人を使用する場所なので、直接手で触れることなく、手をかざすだけで水やハンドソープが出ることでコロナウイルス感染拡大防止につながると考えました。

また、コロナウイルス感染拡大防止とともに、これらを自動式にした方が、水やハンドソープの節約にもつながると思いますので、ご検討していただきたいです。どうぞよろしくお願いたします。

**島崎彩花 副議長：**

松下教育長。

**松下 教育長：**

「我慢と辛抱の3年間」との言葉に代表される日々を送っておられる皆様が「このような中でもできること」、「このような中だからこそできること」を探し、一生懸命に学校生活を過ごしておられる報告を校長先生方からお聞きするたびに、ありがたく思っております。

その中においても、日々の感染症対策には最も気を使っているところであり、手洗いの蛇口とハンドソープの自動化についてのご質問は、生徒の皆様が自ら感染症対策の重要性を認識しているものと感じており、大変うれしく思います。

学校における新型コロナウイルス感染症対策の考え方につきましては、文部科学省が令和4年4月に策定した「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～」において、手洗いなどの手指衛生など基本的な感染症対策を継続することが重要であることが示されています。

本市では、このマニュアルの趣旨を活かし、対策を効果的に実施できるよう、令和4年度予算の一部、総額約7千9百万円を学校に配当しています。

そのような中、取り付け費用が必要となる手洗いの自動化につきましては、学校配当の予算内で教育委員会が学校に設置の希望調査を行い、22校から要望を受けました。

要望をいただいた学校については、教育委員会が取りまとめて購入手続きを行うことで、1校あたりの単価を安くしたうえで、令和5年2月末日を期日として、設置に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

今後におきましても、児童・生徒の皆様のお安全・安心を第一として、学校を支援してまいります。

2学期が始まります。これまで同様、基本的な感染症対策を徹底していただきますことを重ねてお願いするとともに、コロナ禍の中で、懸命に歩みを進めておられる皆様の学校生活が、おだやかで、感動に満ちあふれたものとなりますことを、心からお祈りしております。

**島崎彩花 副議長：**

20番。土佐山学舎，常光陽世議員。

**土佐山学舎 常光陽世 議員：**

土佐山学舎の常光陽世です。私は，高知県の，特に高知市の移住を推進する政策についてお尋ねします。

皆さんは「土佐山百年構想」について，どのくらい知っていますか。私たちの学校がある地域・土佐山は，現在「限界集落」と呼ばれる，過疎化・少子高齢化が進む地域になっています。それを食い止めるために打ち出されたのが，この「土佐山百年構想」です。書画カメラお願いします。(資料提示)  
「教育」「人口拡大」「産業」の3つの観点からアプローチし，土佐山を活性化させるという取組なのです。

しかし，県外・国外とつながる部分には，「交流」「Uターン」「Iターン」の3つしか挙げられません。活性化に繋げるためには，この県外・国外からの人を呼び込むことも大事なのではないのでしょうか。書画カメラ終わります。

そこで，高知市の移住について調べることにしました。高知市では，特色ある移住プロジェクトを行っており，中でも二段階移住という取り組みには興味が湧きました。この取り組みは，高知市だけでなく県全体にある土佐山のような過疎地域の活性化に繋がるプロジェクトだと思っています。現在高知市では，2015年度から始まった移住・定住促進計画が2020年度に第2期を迎えており，コロナ禍で県をまたぐ移動が控えられている中，実際2022年にどのぐらいの人が高知市に移住してきているのでしょうか。また，これから新しく過疎地域へ繋がる移住について取り組みをする計画はあるのか，お聞きしたいと思います。ご回答よろしくお願いします。

**島崎彩花 副議長：**

橋本総務部長。

**橋本 総務部長：**

土佐山百年構想による土佐山地域の活性化に着目をされ，本市が積極的に取り組んでおります移住施策について，地域の実情や将来の姿を真剣に考えられた素晴らしいご質問をいただきました。ありがとうございます。

本市では，二段階移住やお試し滞在施設運営など，様々な移住・定住を促進する施策に取り組むとともに，新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け，人口が過密状態にある大都市圏にお住まいの方々の地方移住への関心の高まりから，1年間を通じた実績では，本市への移住者数は2019年度以降増加傾向にあり，直近の2021年度の県外からの移住実績は324組498人と過去最高になりました。

この移住施策の一つであります「二段階移住支援制度」は，都会から田舎への移住に不安があり，移住になかなか踏み出せないといった方を対象に，一段階目では比較的都市機能が整っている高知市にお試し移住をしていただき，高知市に暮らしながらゆっくり県内市町村を見て回り，ご自分に合った場所を見つけ，二段階目の移住をしていただく，段階的な移住を推進するものです。

移住は，これまでの生活環境や身の回りの様々な人間関係を変えることになりますので，人生の中

でも大きな決断が必要となつてまいります。

このため、田舎暮らしに憧れて移住しても、「思っていた仕事がなかった」「友人ができなくて寂しい」などの理由から移住地を去った方も少なくないため、このような移住ミスマッチを減らすためにも県内34市町村と高知県が連携してオール高知で二段階移住の推進に取り組んでいます。

常光議員がおっしゃるとおり「土佐山百年構想」に向けて取り組む土佐山地域や、同じく中山間地域である鏡地域は、清流鏡川の上流に位置し、豊かな自然が魅力的ではありますが、その一方でご質問にありましたように人口減少・高齢化は本市の中でも特に進んでおり、地域での暮らしを維持し、活性化していくためには、「新しい人の流れをつくる」ことが大変重要になってまいります。

また、中山間地域への移住を進める上で、住まいを確保することも課題となっておりますので、中山間地域への移住・定住の支援としまして、土佐山地域では、旧土佐山健康交流センターの跡地等を活用し、子育て世帯が対象となる地域活性化住宅を整備するとともに、鏡地域では、短期間ではありますが中山間の暮らしを体験・滞在することができる「かがみ暮らし体験滞在施設『しいの木』」の貸し出しなどにも取り組んできたところです。

加えて、現在、本市では鏡川流域の自然と人、人と人をつなぐ「鏡川流域関係人口」を創出し、鏡川流域の自然への人の関わりを促進する取組を進めているところであり、地域に関わる人が増えることにより、将来的な鏡・土佐山地域への移住も期待できると考えております。

今後につきましても、引き続き地域にお住まいの方々のご意見を伺いしながら、過疎地域への移住・定住にもつながる効果的な取組につきまして、継続して検討してまいります。

**島崎彩花 副議長：**

21番。高知商業高等学校、山本莉穂議員。

**高知商業高等学校 山本莉穂 議員：**

高知商業高校の山本莉穂です。私達は2018年にとさでん交通と連携した「電車で市商祭へGO！」プロジェクトを実施し、多くの集客と売上をあげることができました。その仕組みがこちらです。書画カメラをお願いします。(資料提示) とさでん交通が運営する電車に乗車いただき高知商業の文化祭にお越しいただいたお客様の往復運賃400円分を高知商業側が負担するという仕組みです。これによりお客様は無料でイベントに訪れることができ、高知商業側・とさでん交通側は売上UPにつながるという新たな経済循環のしくみを生み出すことができました。

私はこの仕組みを活用すれば、高知市の中心市街地、そして高知の路面電車という文化を守り抜けると考えています。書画カメラ終わります。

そこで令和4年11月5日・6日に高知県唯一の百貨店である高知大丸にて開催予定の新企画「高知商業グローバルフェスティバル」を活用し、その検証実験を行いたいと考えています。この仕組みの効果が立証されれば、電車利用のお客様、高知市のイベント主催者、そしてとさでん交通の3者にとってWIN-WIN-WINの効果が生まれ、高知市の中心商店街等の活性化そして高知市の経済活性化につながると考えます。

そこで提案があります。高知市役所のみなさんにも連携していただき、高知市・とさでん交通・高知大丸・高知商業の4者とその取組に向けて話しあう協議する場を設けていただけないでしょうか。高知市の経済活性化のための新たな仕組みづくりとしてどうぞよろしく願いいたします。

島崎彩花 副議長：

岡崎市長。

岡崎 市長：

いよいよ最後の質問になりまして、21問皆様方にそれぞれ課題を整理していただきまして、時宜を得たご質問をいただきましてありがとうございます。

高知商業の先ほど紹介いただきました「電車で市商祭りへGO」ですけれども、私も1回伺ったことがありますので、非常にそのとき賑わっていたということを今でも覚えております。

それぞれ高知商業の学校でやられた時でしたので、路面電車の運賃を学校が負担をしてですね、商業祭と重ね合わせて非常に多くのお客さんが来ておりまして、商品もふんだんにありましたので、すごく賑わっているなという印象がありました。

この取組ですけれども、いわゆる学校に在学中に実践的な経営力の獲得を目指すというのが高知商業高校の教育方針でありますので、非常に高知商業らしい本領発揮をした事業であったと感じました。

さて、今般の「電車で市商祭へGO!」ですけれども、新たに高知大丸へ会場を移しまして、さきほどご紹介いただきましたとおり、本年の11月5日と6日、高知大丸で開催予定ということで、高知大丸グローバルフェスティバルという名前で開催をするということで、今、大丸さんと協議をしているというふうにお聞きしております。我々も公共交通に乗ってもらうという取組で、昨年、日曜祝日電車、バス無料デーというのを行いまして、この時非常に多くのお客様に、日曜日と祝日限定でしたけれども、無料でしたので非常に多くのお客様に乗っていただきまして、この時は路面電車の場合でやっていたなかったその前の年と比べてお客様が約2.4倍、バスの方は2.8倍、日曜祝日の無料デー、のべ人数で49万人の方々に乗っていただいております。普段はあまり行かない安芸の方の野良時計の方まで無料で行けますので、学生グループだけで行っていたり、いろんな動きがありましたので、我々もやってよかったなという風に感じたところです。今般の「電車で市商祭へGO!」のプロジェクトと、我々も別の路面電車・バス等の事業を今やろうとしておりますので、それと相乗効果があるということも期待をしております。

今回高知市商業グローバルフェスティバルの舞台となります高知大丸、また、中心商店街の皆様とのコラボレーションをうまく仕立て上げることができれば、非常に賑わうことの相乗効果は当然期待をされるというふうに思っております。高知大丸も今年の3月にリニューアルオープンいたしまして、また第2期のリニューアルを行って、また秋口に新しいものが開いてくると聞いておりますので、いいタイミングなのではないかなというふうに思っております。今年の9月にですね、リニューアルの第2弾といたしまして、東館の方になりますけれども、5階の方に高知県、また地域の製品のセレクトショップといわゆる食事用のフードホールがオープンするというふうに聞いておりまして、仮の名称ですけれども、「OMACHI 360 (おまち さんろくぜろ)」三百六十ですが、OMACHI 360がオープンすると今、鋭意準備をしておるといいうふうに聞いておりますので、いいタイミングじゃないかなというふうに思っております。

高知商業グローバルフェスティバルを核といたしまして、「高知市・とさでん交通・高知大丸・高知商業の4者が協議する場を設定していただければというふうに思いましたので、我々も本市として、この4者が集う、話し合う場というものを検討いたしまして、それぞれアイデアを出し合いながら中

心市街地の活性化や、また地域産品のいわゆる特産品等の活性化につながる取組を検討してまいりたいと思っておりますので、また高知商業のご協力もどうかよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

**島崎彩花 副議長：**

以上で、通告による質問は全て終わりました。

この度、長野哲己議員他20名から、令和4年度志議会宣言が提出されました。内容を説明させていただきます。

**事務局長：**

これより、頼美樹議長、島崎彩花副議長が、令和4年度こうち志議会宣言を読み上げます。

**頼 美樹 議長 島崎彩花 副議長：**

こうち志議会宣言。

**島崎彩花 副議長：**

私たち志議会議員一同は、本日、令和4年度こうち志議会を終えるにあたり、人と自然が共生し、未来に向かって持続的に発展できる、思いやりにあふれる都市高知を目指して次のことを宣言します。

### 1 共生と安心の環

これからの社会はジェンダーにとらわれることなく、一人ひとりの個性や生き方をお互いに認め合い支え合う社会の実現が求められます。高知で生きる私たちも、互いを尊重し、助け合うことが大切です。私たちはこれから南海トラフ地震と向き合うこととなります。そのためには、学校や行政といった枠組みを超え、それぞれの地域がひとつになることが大切です。地域の伝統文化を受け継いでいく活動を広めたり、地域の温かい交流の要となることで、人と人が繋がるまちづくりを進めていきます。

### 2 育みの環

新型コロナウイルスによる活動制限を受けるなかで、AIの発達や、ICT機器の性能向上が加速的に進み、私たちの生活には大きな変革が起きています。ネットワーク技術の向上によって、出会いの輪が広がり、地域や世代を超えた交流が促進されています。私たちはこれから、人工知能やICT機器を活用する技術と、多様な人々とコミュニケーションする力、また新しい世界を切り拓いていく力を身につけていきます。

**頼 美樹 議長：**

### 3 地産とまちの環

訪れる人を優しく包み込む高知市の人々のおもてなしの力が、地域や産業を活性化する原動力となっています。私たち若者は、高知の歴史や文化、それぞれの地域の特性を学び、高知市の未来を担う一員として成長していきます。また、安全で住み続けたいと思えるまちにするため、通学時の交通安

全や防災、働き方について自ら学び、行動を起こします。

#### 4 自立の環

高知市の伝統的な文化、豊かな自然、産物、そして温かい人柄は世界に誇れる財産です。この財産を私たち若者が後世へと受け継いでいくとともに、発展させ、国内外の方々の「高知に行きたい」「高知で住みたい」という思いを引き出します。そのために、日々の学校生活や生徒会活動での学びの中で、私たちを取り巻く地域そして世界とつながり、新たな風をもたらすことのできる持続可能な活動に挑戦していきます。

今回のこうち志議会を通して、高知市の魅力的な文化を再確認できたとともに、高知市が抱える課題や現状を学び、向き合うことができました。この経験から、これからの高知市を担い、創造するのは私たち若者であると改めて実感しました。そして、高知市への想いを行動に移すためには、18歳を迎えた時、自分の意思を持って選挙に行き、1票を投じることが重要だと気付きました。高知市民の一員として、高知市がさらに輝く未来の担い手として、これからも高知や日本、そして世界について学び、行動することをここに宣言します。

令和4年8月25日。令和4年度こうち志議会議員一同。

#### 頼 美樹 議長：

議長を交代いたしました。これより採決いたします。令和4年度こうち志議会宣言に賛成の皆さんの起立を求めます。起立全員であります。よって令和4年度こうち志議会宣言は、原案のとおり可決されました。

閉会に当たり岡崎市長からご挨拶があります。岡崎市長。

#### 岡崎市長：

皆様、大変いい質問をいただきまして、ありがとうございました。こうち志議会の閉会にあたりまして御礼の言葉を申し上げます。

頼議長様、そして島崎副議長をはじめとします議員23名の皆様方、本日は大変にありがとうございました。

また、中学校、義務教育学校の皆様からは学校に関することや、今コロナの関係の中で働き方が問題になっていますが、そういう問題。また、防災、交通安全、ジェンダー、また地域振興など、さまざまな分野にわたりまして、今の時代にふさわしいご意見をたくさんいただきました。日頃の、学校生活や、地域の一員として生活する中で疑問点や課題と感じていることに対しまして、生徒会を中心に協力して調べながら、議論したうえで、中学生らしい瑞々しい視点をもって高知市政の発展のためのご提言いただきました。

答弁しました内容につきましては、ご提言を踏まえまして、さらに深く我々も検討しながら。市政を考えるうえでの、今後の政策の展開に活かしたいというふうに考えております。

また、併せまして、高知商業高等学校の皆様からは、実践をされておられます高校ですので、これまで学習され、そして実践をされてこられたことを踏まえて、新しい提案を受けました。高知商業は



伝統校でもありますし、商業をベースにして地域の発展を常に考えておられますので、我々もそのことに敬意を表しております。

そして、議長の頼さん、副議長の島崎さんにおかれましては、堂々とした進行お疲れさまでございました。ありがとうございました。先ほど、最後に「こうち志議会宣言」をそれぞれ参加議員さん全員でご承認をいただきまして、すばらしいまとめをしていただきましたので、この宣言文からは高知市の未来を目指す若者の姿を含めまして、皆様方の強い思いを深く感じることができました。

「こうち志(こころざし)議会宣言」の決意を、私達も執行部としてしっかりと胸に刻みながら、共に頑張っていきたいと思っております。皆様方、また、これから様々な分野で、新しい葛藤が始まったりしますが、コロナ禍の中という非常に制約をされた条件のもとではありますが、皆様方のご活躍をここにおる全員が祈っております。

また、学校関係の皆様、大変ご支援をいただきまして、ありがとうございました。皆様方に御礼を申し上げまして、閉会のごあいさつとさせていただきます。共に頑張りましょう。今日は誠にありがとうございました。

**頼 美樹 議長：**

議員の皆さん、お疲れさまでした。また、岡崎市長をはじめとする執行部の方々、ご丁寧な答弁をありがとうございました。さらに、本日、お忙しい中、傍聴に来ていただいた皆様方に心から感謝いたします。

これにて、令和4年度こうち志議会を閉会いたします。